

第6分科会 「社会を形成する力」の運営概要

【研究課題】

社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

【リーダーシップの視点】

- 1 社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造
- 2 自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善

I 分科会研究協議の運営計画

【リーダーシップの視点1について】

- ・昨年度の視点1では、キャリア教育の要素との重複を整理し、新たな視点として設定した。その中で、社会的な変化により、子どもたちは家庭や地域において、社会性を高めたり、人間関係の構築を育む機会が減ったりしていることを受け、学校には、地域や家庭と連携しながら多くの人々と関わり社会との関わりを豊かにしていく力の育成が求められている。そのためにも、「どう地域との結び付きを醸成する機会を設定するか」「地域の一員としての自覚を促す取り組みはどうあればいいか」など、社会に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための校長としての具体的な策を明らかにしていく。

【リーダーシップの視点2について】

- ・視点1は、地域とのつながりや地域との関わりを作る、深めるための学校の動きを創り出す校長のリーダーシップについて探っていくという学校と外部との連携が主となる。視点2では教育課程の編成、実施の段階で学校自らが地域との関わりを深めるために各教科の特性を意識した学習内容や地域素材の活用など、学校が主体的になって取り組むべきものの整理や教科で醸成した知識や技能を社会の活動に積極的に活用する姿や態度に育てていくための校長の在り方について明らかにしていく。

【討議の柱】

- ① 社会を形成する力を高める教育課程の編成と校長の関わり。
- ② 地域の活動を生かす学校の関わりと校長の指導性(校内での関わり・地域での動き)

II 昨年度までの課題

～ 十勝大会から ～ (平成25年度より新設された分科会)

- a まず、「社会形成能力」をどのようにとらえればいいのかを明確にする必要があること。
- b 次に、「社会形成能力」の育成を推進する教育課程をどのように編成、実施していけばいいのかを考える必要があること。
- c キャリア教育との違いを明確にしなければならないこと。
- d いずれにしても、教育課程編成のポイントとして、どの学年でも「他者へ関わる・集団に関わる」ことを原点とした取組を構築することが大切であること。

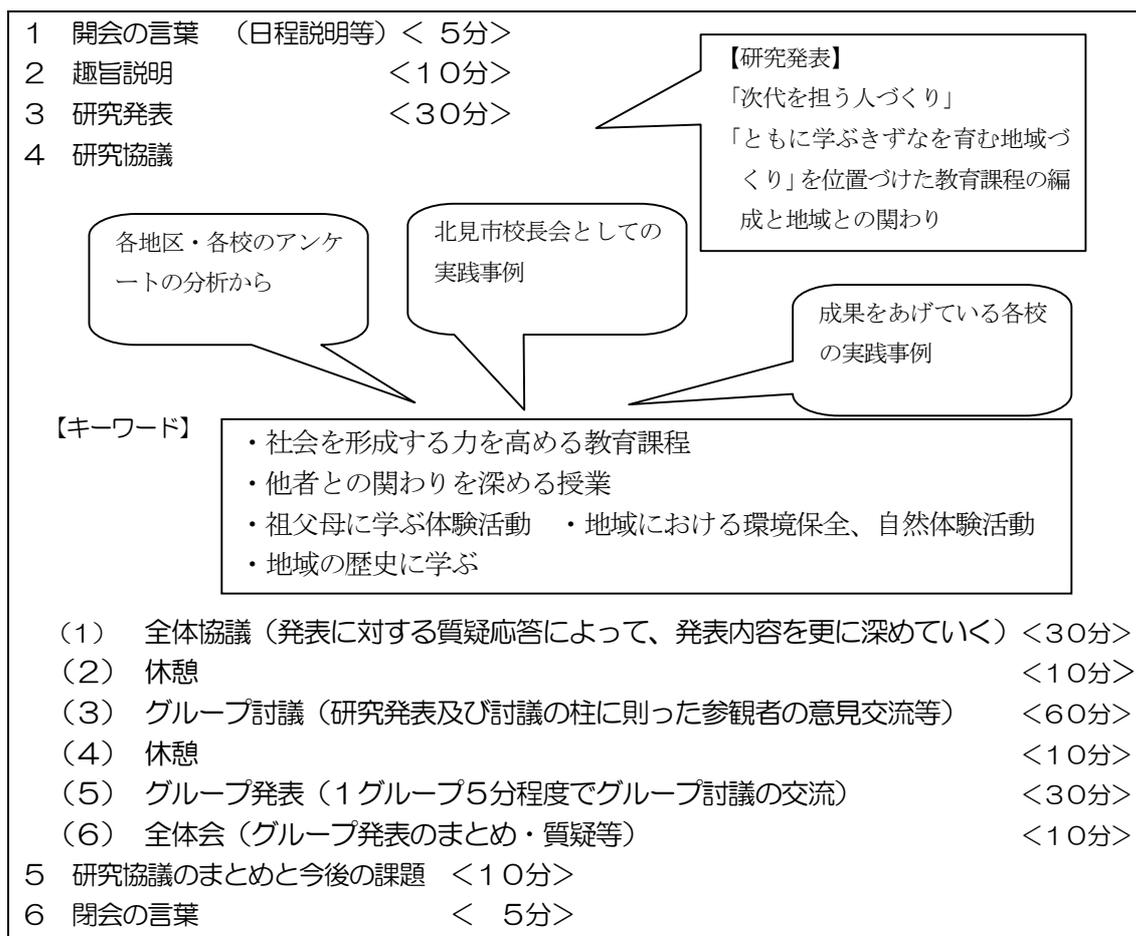
a～cについては、本分科会の根幹に関わることであるため、25年度末に整理され「社会を形成する力」という分科会に変更になった。整理された内容というのは、キャリア教育の中に位置付けられている「社会形成能力」は、「仕事に就くこと」に焦点を当てて整理した能力の一部として示されているが、本分科会は「自分の役割を果たしつつ、他者と協力して社会の様々な活動に参画し、今後の

社会を積極的に形成していこうとする力として「社会を形成する力」を位置付けるというものである。そのことを踏まえて、今後の研究を進めていくことが重要である。

Ⅲ 研究発表の概要

- 研究発表者 オホーツク地区 北見市立相内小学校長 河原 賢
 発表題 社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方
 視点 (1) 自立した社会人として生きていく基礎となる力を付けさせる教育課程の編成・実施・評価・改善のための校長の役割と指導性。
 (2) 地域に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための校長の役割と指導性。
- 発表の主張点
- ・北見市教育大綱と本分科会リーダーシップの視点の関係
 - ・他者との関わりを高める授業改善
 - ・社会を形成する力を高める教育課程の編成
 - ・北見市「絆を育む学校づくり支援事業」における地域と学校

Ⅳ 協議の流れ (13:00 ~ 16:30)



*グループ討議の際に意見交流しますので、自校の教育活動の中で「社会を形成する力」の育成を意図した取組み等、整理しておいてください (ペーパー等の用意は不要ですが、資料を用意する場合は、7~8部程度で構いません)